

最近、「柴刈り」という言葉をいつになくよく耳にした。

NPO法人きんたろう倶楽部の呉羽丘陵の竹林整備で、市民が竹や雑木を伐採し、里山を手入れした。スタッフから「昔話によく出てくるでしょう。この活動が柴刈りですよ」と聞き、山道を歩きながら、昔は当たり前だった仕事に思いをはせた。

富山市八尾地域で野蚕が育つ里山づくりに取り組む「県がうん天蚕の会」は昨年、卵が予想以上にふ化し、餌となるクヌギの葉が不

「柴刈り」に思うこと

足したという。「クヌギの葉を調達するため、山に柴刈りに行かなくてはならなくなり大変でした」との話に苦労を想像した。

市内の幼稚園児を対象にしたあるイベントでも聞いた。主催者代表の男性が「おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました…」と話し始めたところ、「桃太郎だ!」と子どもたちの元気な声が飛び交った。「柴刈りって分かるかな」と男性に聞かれると、少し声が小さくなった。

誰でも聞いたことのある言葉が、実感を伴った身近な言葉になり、里山整備の大切さが広く伝わればいいと思う。